



# 名古屋大須ロータリークラブ

WEEKLY REPORT

NO 953

＜本年度クラブ会長方針＞

**LEAD THE WAY - 率先しよう**



承認 1985年2月12日 例会日 木曜日12:30 例会場 名古屋東急ホテル  
 会長 神田 憲 URL <http://www.nagoya-osu.org> Email [office@nagoya-osu.org](mailto:office@nagoya-osu.org)  
 幹事 内藤 明 電話 (052)251-0181 FAX (052)251-0337  
 事務局 460-0008 名古屋市中区栄4丁目6番5号 丸越ビル 6F

2006～2007年度  
 R. I. 会長  
 ウィリアム B. ボイド

## 第113回例会

於名古屋東急ホテル  
 平成19年5月10日(木)  
 会員 69名

出席計算数 62名中  
 出席率 89.06%  
 前々回出席率 91.93%

### ロータリーソング

「君が代」  
 「ROTARY」  
 指揮 大原 敏正

ピアノ伴奏 富板 金子

### ゲスト

青少年交換学生  
 ノリア ペンナネンさん

### ピクチャー

津島RC 水野 憲雄さん  
 名古屋港RC 川瀬 公さん  
 名古屋北RC 鈴木 堂司さん

### ニコソックス

今回は職場例会です、よろしく。  
 近藤宏一郎  
 木村さんありがとうございました。  
 吉田 隆彦

木村さん、ありがとう。  
 草野 勝彦  
 鬼頭さん、素晴らしい演奏会有難うございまして。  
 北川 晶邦  
 佐々木さん大変ありがとうございまして。  
 木村 光徳

娘のコンサートよろしくお願ひしま

す。  
 31回目の結婚記念日です。  
 神野 邦利

結婚記念日です。  
 前田 隆入

結婚日です。  
 横井 衛・酒井 修

孫の誕生日です。  
 小澤 幸男

あつじつまの61年、すへてに感謝々!!  
 伊藤 与則

5/25誕生日です。  
 佐藤 彰

誕生日です。  
 佐々木 功

連休も終わりました。  
 渡辺 剛男

連休も終わりました。  
 飯田 昭夫

### 会員挨拶

今朝、名古屋市立老松小学校に太田裕社会奉仕委員長・杉浦令淑環境保全委員長・内藤 明幹事と共に、メタカ20匹と水槽一式を寄贈してきました。10匹は理科の学習用として5年生の教室へ、残りの10匹は自然観察用として校庭の池に生徒の手で放たれました。  
 会長 神田 憲

我々が子供の頃、小川や池や田んぼなどは沢山ありました。環境汚染の影響で都会では見ることが出来なくなってきました。そのせいかメタカを知っている生徒は約の割でした。

生徒の皆さんに生き物を大切にする気持ちを持って可愛いまたカを大事に育てて下さいとお願ひをしたと

ころ、大事に育てますと笑顔で約束してくれました。

クラブ社会奉仕活動の一環である中区の小学校へのメタカの寄贈は今年で10回目となりましたが、今回で終了符を打ち事になりました。このプログラムは西尾RCの藤田昭博さん・名古屋大須RC元会員の石原忠止さんのおかげで10年間継続し、お一人には長い間お世話になり有難く思います。24日の例会でクラブから感謝状をお渡しする事になっております。

4月の末 Chicago で規定審議会が開かれました。制定案等の内容は後日出来れば岡部PROGより会員の皆さんにお話頂けたことを希望します。

その中の1つに、クラブ例会を、毎週もつは用2回のペースでも良いと認める件と云う提案案がありROT B (Ferrad to Board) 理事会に付託と記されていまして。

今思い出しますと2年前前に韓国 Pusan make-up した時そのRCは月2回の例会であるとなりました。メリットは例会を楽しむと会員が増え出席率が上がり、事務局の運営費が3/4に減った事、また会員の皆さんが一番喜んだ事は時間的余裕が出来たと語ってくれました。

この話を4月30日に東京渋谷で開かれたある会議で話したところ、規定審議会から戻られた方が、それはRが指定をしたハイロットプログラムで

あり、一定期間世界の数地区で、その案を取り入れるかどうかを判断する為のテストケースであると説明を受けました。PusanのRCは「うも」のケースの様です。理事會付託の決定はどのように出るのでしょうか？

### 地区協議会の発表

#### 次年度クラブ奉仕委員長

佐藤 彰さん

5月6日に地区協議会が開かれ、クラブ奉仕代表で参加致しました。午前の本会議は、次期RI会長と地区ガバナのテーマ説明があり、昼食後分科会に入りました。

私の第2分科会は副会長・会長として、クラブ奉仕・R情報・会員増強・広報・TR家族の入所帯・各地区委員方のご説明を受け、中でもCLPに対しての地区の受け入れ方はRIからの強制ではなく、各クラブ自主性の中、マンネリ打破と活性化のため検討をしてみたい。と語られ又他の委員は1丁の採用により大幅な経費削減。ロータリーに欠けていた広報の重要性。奉仕活動も家族理解があつて成り立つ。等々。中でも強く話されていたのが今年度での各クラブ純増の名の会員増強を訴えるものでした。最後にハストガバナー岡部氏が講評として、CLP採用によりクラブ管理の簡素化を計り、できた余力を各クラブがより深い奉仕活動に向け努力しよう、の言葉を頂き閉会となりました。

次年度社会奉仕担当副委員長

川畑 博敏さん

2007年5月6日(日)ロウエスキャンナリヤキャッスルで行われました2007~2008年度のための地区協議会の第4分科会社会奉仕サブプログラムの内容について報告いたします。

まず次期地区社会奉仕委員長の伊藤さんより「社会奉仕とAEDについて」挨拶がありました。社会奉仕委員会は各クラブでもAEDの方が多く、地区として何をしてくださいますか、失礼な事は言いませんので、活動内容についておまかせしますとのことでした。

次にAED(心臓に電気ショックを与え正常な状態に戻す医療機器)の話に移り、伊藤さんがシカゴ大会に行かれた時、心筋梗塞になり病院にかぎ込まれ、AEDによって命をとりとめた体験を紹介されました。その後AEDが手軽に誰でも使用出来るよう普及に努力されているそうです。特にロータリアンには必要な医療機器だとして、金のためっている人は必ずコレステロールもたまっているので10万円ほど出して買っておいた方が良いのではないかと。

次に次期地区社会奉仕副委員長の西脇さんより「社会奉仕の概略」と題して、今までの各ロータリークラブが社会奉仕活動として各行事、各団体に支援寄付・助成・協力を行ってきた歴史をお話になりました。

次年度国際奉仕委員長

岡村 隆徳さん

5月6日地区協議会にて第5分科会に参加してきましたので報告させていただきます。

第5分科会が国際奉仕・青少年交換・世界社会奉仕の活動の分科会であり、テーマは「国際奉仕はロータリーの得意分野世界の幸せと平和のため」であり、今回はその他「ロータリー財団危機管理も加わり進行されました。

最初に青少年交換のセッションでわが大須ROCからニアとフランス留学された藤井さん名駅ROCのスピーチがあり、青少年交換活動の意義を感ずるよい機会となり大変好評でした。配布された青少年交換プログラムの実績では直近10年で見ると大須ROCは受け入れ12名で2760地区でトップであり西名古屋分区分の実績の過半数以上を担っており、受け入れ家族の皆様をはじめとし、大須の歴代委員の方々のご尽力が地区の青少年交換活動に大いなる貢献をしている事実を実感しました。しかしロータリー会員の減少・高齢化、家族形態の変化により志願者にホストクラブが見つからない問題が深刻になっており、今後さらに受け入れ家族の御苦労をROC全体、クラブ全体でシェアするしくみが必要かと思いました。

その後WCSのプロジェクトにおける今年度の活動申請の説明がありました。江崎カバナーエレクトよりWCS

Sは国際奉仕の要であり、もっと活発にするべきでロータリー財団も力になるとの励ましをいただきました。究極の目標は世界平和であり、それに向けて毎年のテーマがあつてもいいのではこの提案がありました。盛田パストガバナーからも1年で終われるプロジェクトを計画し推進することでもマンネリ感を打開できるとの意見もありました。どちらにしても目的や方向性と共に伴う活動計画が重要と感じました。大須の今年の活動に関してはただ今検討中です。

最後に危機管理の説明があり、米国内務省からもセクハラ虐待に対する警告や大阪大会での元交換学生からの提訴、パストガバナー有罪事例などより、日本版の指針策定の説明がありました。ボランティアの犯罪歴の要求や、問題を起したクラブのロータリー除名など厳しい項目もありますが、日本の文化土壌に起因する潜在的虐待、ハラスメントの存在などの観点からも、主旨としては学生を虐待から守るだけでなく、ボランティアを訴訟から守る方向での未然防止活動を徹底します。

以上地区協議会国際奉仕関連分科会の報告でした。

次年度ロータリー財団米山奨学委員長

柴崎 正将さん

“米山学友は世界を、日本を支える力”というタイトルで飾られた会場で分

科会は始まりました。ロータリークラブに在籍して、過去にもクラブの行事で三島の米山記念会館へ出かけたこともあるものの、主々の誤認識であることがわかりました。そもそも、米山梅吉さんがこの奨学会を作ったんだらう程度の覚えでありましたが、実際は米山さんが亡くなった6年後の1952年東京ロータリークラブの会員により米山さんの意を組み奨学事業を通じて「世界に「平和日本」の理解を促す願いの事業として設立、それが日本国内全クラブの合同事業として発展したものであるということです。

現在、基本基金50億円、特別基金25億円の75億円が運営しており、日本最大の奨学基金でもあります。98年に基金も7億円で98億円ありましたが、不況等で少しずつ減少してきていましたが、昨年ようやくプラスに転じるようになったこの事であります。その間、毎年、1000人の奨学生に月額15万の補助を88人に14万の補助に切り替えて運営している状況です。現在、1年に約15億掛かり、10万人のロータリアンで計算すると一人当たり15,000円の負担が必要であります。今までは、海外から留学された優秀な大学生、院生を中心に選考してきていたのですが、大学のある都市の留學生に偏るため、高専、専門学校生にも対象を広げるようになりま

した。必ず、指定校の教官の推薦状が必要ですが、身近にいる優秀な学生を

んなら、教官にお願いして推薦状を求め、試験を受けてもらうことも可能で

途中、ガバナーエレクトが出席の上、今回アメリカを支えている人の中に、以前フルプライトの奨学金で米国留学を受けた人が各国でリーダーとなった人が多くいる。日本も米山の奨学金が自分の国へ帰り、リーダーとなる日本を支えてくれるようになるはず。この挨拶がありました。日本でサッカーのワールドカップを韓国と共同開催するに至るには、米山奨学生への韓国人の崔さんが韓国大使となり彼の後押しで実現したなどのエピソードがありました。2760地区は、総額の寄付金は多いものの、一人当たりの寄付は現在14位であり、クラブでも、一人1,000円の積み増しを願いたいとの講評でありました。

次年度は、担当であります。ロータリー財団ともども絶大なご協力を願います。



5月24日(木)例会の御案内

卓話「地球温暖化の危機」

名古屋環境局 地球温暖化対策室

主査 小木原 史香さん

プリンチ委員会

山口 正孝 神野 邦利・大原 敏正